

講義名	教養特講（読書力）/読書力			授業形態	
担当教員	藤原 喜美子		開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限	
	単位数	2	履修開始年次	1年生	ナンバリング・コード

主題と概要

この講義の目的は、読書を通して本に慣れ親しみ、その本の要点を読み解く力を養うことにある。書籍からは様々な情報が私達に発信され、一冊の本には著者の色々な思いが込められている。そこで、教科書や課題図書を超材にして、そこに記されている内容の中から、時間ごとにテーマを選び、選んだテーマの内容を話し合いながら講義を進める。

講義では、教科書や課題図書を皆で読み、「読む力」を養う練習を行う。また、そこから読み取れた事柄や自分の感想を文章にまとめ、「書く力」を養う。さらに、受講生同士の会話の時間を作り、「話す力」や「聞く力」を養う練習を行うことがある。このように、「読む」「書く」「話す」「聞く」ことを通じて、「文章を読む」ということに対する読解力や向学心を育てていきたい。

到達目標

学生が、教科書や課題図書を読むことで本に慣れ親しみ、自らが興味のあるテーマを本の中から見つけ、興味を持った事柄について自分の感想や考えを述べるようになる。

提出課題

講義では、毎回、小レポート（感想文や授業内容の確認）を提出してもらい、小レポートの課題は、講義ごとに伝える。学期末には、学期末レポート試験を実施する。学期末レポート課題の詳細は、別途、12月前半に、講義中の説明ならびにRYUKA portalの掲示を通して指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の講義に書いてもらった感想文の内容は、提出後に次の回の講義などで、読書に関する考え方として紹介する。

評価の基準

評価は、毎回の講義における小レポート（感想文や授業内容の確認15分・60点）、学期末レポート試験（40点）を総合して評価する。評価の基準は、第1回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

履修にあたっての注意・助言他

- 【重要】第1回の講義から、教科書を使用する。そのため、教科書は、教科書購入期間に必ず購入し、第1回の講義に必ず持参すること。教科書は、「読書力 読み上手 書き上手」（ちくまプリマー新書076、筑摩書房、2008年2月発行、800円＋税）を使用する。
- 教科書の他に、「図書館に所蔵されている課題図書（文庫本または新書）」を利用する。自時間の「課題図書の書名」は、第1回の講義の時、課題図書の書名を書いた用紙を配付し、説明する。また、自回の講義の時にも、次週の課題図書の書名を紹介する。
- 事前に教科書を読み、予習を必ずしておくこと。教科書を読む時は、まず目次を見て、自らが興味のある項目から読んでもらいたい。
- 本に慣れ親しみ、積極的に読書する習慣を鍛えてもらいたい。
- 教室で「対面授業」を実施させていただく。講義の進め方は、第1回の講義で説明する。

教科書

『読み上手 書き上手』（ちくまプリマー新書076）	藤原喜	筑摩書房	800	9784480687784
---------------------------	-----	------	-----	---------------

参考図書

.なし.				
------	--	--	--	--

その他

<プリント資料>
プリント資料は、必要に応じて配布する。
<参考文献>
参考文献は、講義中に適宜紹介する。

授業計画

- 「読書力」とは読書に慣れ親しむということ
- 読書を考える
- 読書を考える 伝える力を養う
- 読書を考える 記録と記憶の技術
- 読書を考える 読む技術
- 読書に親しむ 民俗学への招待(1)
- 読書に親しむ 民俗学への招待(2)
- 読書に親しむ 民俗学への招待(3)
- 読書に親しむ 日本文化のルーツを探す(1)
- 読書に親しむ 日本文化のルーツを探す(2)
- 内容を理解する 地域の特性
- 内容を理解する 日本の生業
- 内容を理解する 人間社会と自然のバランス
- 内容を理解する 日本の生活文化
- まとめ 読書を習慣化することの意味

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習
次回の講義範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、各自、教科書を読んでおく。また、大学の図書館に所蔵されている課題図書について、登壇までに興味のある項目を1つ進んで読む（約2時間）。
復習
講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる小レポートや感想文を記入する。また、各自で、その日の講義の要点等を確認する（約2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、全学共通科目の教養科目として、上記の主題と概要、到達目標の修得を通じて、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。
(2) 知識を知恵に転換することができる。論理的思考力を持った人材
・課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査・整理することができる(情報収集力)
・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)
・現象や事象のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)
・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)
(5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
・他者に働きかけ、協力を取りつけることができる
・他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる
・自分と周囲の人々や物事との関係・現状を適切に把握し、自らの役割を的確に果たすことができる
・他者との間に相互に信頼し合う関係を築くことができる

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義では、自回の前半は教科書等を用いた講義の形式で進める。また、受講生の会話の時間を設ける。自回の後半は、その日の講義のテーマや登壇のテーマの内容について、各自でレポートを作成する。

実務経験の有無及び活用

課題図書の中には、日本の歴史や文化に関わる書籍が含まれている。特にそのようなテーマでは、民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務などの実務経験を活用し、日本の地域の特色などを紹介し、授業を行う。

備考

この講義は、教室で「受講生同士が会話をする」機会を設ける時間がある。一冊の本には、著者の色々な思いが詰まっている。教科書や課題図書を読む時は、まず自らが興味のある事柄を探してもらいたい。また、教科書には、本を読む時のコツが多く記されているので、自分が実践しやすいものを探してもらいたい。